令和８年度病害虫発生予察特殊報第３号

令 和 ８ 年 ８ 月 １ ３ 日
千葉県農林総合研究センター長

Cucurbit aphid-borne yellows virusによる メロン病害の発生について

１　病原ウイルス：Cucurbit aphid-borne yellows virus（ＣＡＢＹＶ）
２　作物名　　：メロン
３　発生経過

令和８年５月に、県内のメロン生産ほ場で、葉の黄化症状（写真１、２）が発生していることを管轄農業事務所が確認した。農林総合研究センターでＲＴ－ＰＣＲ法により診断したところ、本県では未発生であるＣＡＢＹＶによるメロン病害であることが確認された。

本ウイルスは、令和６年に京都府のキュウリで初めて報告され、現在までに７府県で発生が報告されている。

４　病原ウイルスの性質及び伝染

本ウイルスは、ポレロウイルス属に属する。海外ではワタアブラムシ、モモアカアブラムシ等のアブラムシ類による媒介が報告されており、滋賀県では、メロンにおけるワタアブラムシによる媒介が確認されている。媒介虫が罹病植物を吸汁することにより本ウイルスを保毒し、永続伝搬（長期間あるいは生きている限り媒介できる）する。経卵伝染はしないとされている。汁液伝染、土壌伝染及び種子伝染は確認されていない。

５　病徴

葉に退緑や黄化症状が発生する。症状が進むと株全体の葉が黄化する。本病害の病徴は、生理障害やウリ類退緑黄化ウイルス（ＣＣＹＶ）等のメロンに黄化症状を引き起こす他のウイルスの感染による病徴と区別がつきにくい。本ウイルスの感染株は、着果不良により減収することが海外で報告されている。

６　感染植物

現在までに国内で感染が確認された作物は、メロン及びキュウリである。

７　防除対策

（１）発病株は見つけ次第抜き取り、ビニール袋等で密閉して枯死させてから適切に処分する。

（２）媒介虫となるアブラムシ類（写真３）の防除を徹底する。

ア　育苗時からアブラムシ類の防除を徹底し、本ぽへ持ち込まない。

（ア）薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認するとともに、令和８年度版農作物病害虫雑草防除指針（メロン-４）を参照する。また、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統（ＩＲＡＣコード）の異なる薬剤をローテーション散布する

（イ）ミツバチや天敵昆虫を利用している場合は、影響日数に注意して薬剤を選定する。

（ウ）散布むらがあると薬剤の効果が低くなるので、植物体の全体に薬液が十分にかかるよう丁寧に散布する。

イ　黄色粘着テープを施設の出入口や開口部の近く、もしくは苗の近くにつるし、有翅成虫が飛来していないか確認する。

ウ　近紫外線除去フィルムは成虫の飛来を減らす効果があるので、これらのフィルムを施設の外張りやトンネルに使用する。ただし、花粉媒介用のミツバチの活動も抑制されるため、ミツバチを利用する場合は使用しない。

エ　施設では、側窓や天窓等の開口部に防虫ネット（目合い0.8㎜以下）を展張し、成虫の飛来を防ぐ。

オ　マルチをする場合は、シルバーポリマルチ等忌避効果のあるものを使用する。

カ　周辺の雑草はアブラムシ類の発生源となるため、除草を行う。



写真１　葉の症状

（管轄農業事務所原図）



写真２　株全体の症状

（管轄農業事務所原図）



写真３　ワタアブラムシ

（千葉県農林総合研究センター原図）

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/

・薬剤の選定については，最新の農薬登録情報を確認してください。
https://pesticide.maff.go.jp/

問い合わせ先
千葉県農林総合研究センター病害虫防除課
〒266-0014　千葉市緑区大金沢町 180 番地 1
TEL 043(291)6077　FAX 043(226)9107
E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp